

山内裕雄・真角昭吾・辻 陽雄・桜井 実 編

# 今日の整形外科治療指針 (第2版)

(B 5 判 730 頁 12,875 円 (税込) 1991 年 医学書院 刊)

信原 克哉

(兵庫県信原病院)

多くの学会, 研究会が年間を通して開催され, 玉石混交の報告とそれを収録した情報誌が氾濫する中で, 膨大となった整形外科領域の重要な知識を“透かし織り”したような通覧の書『今日の整形外科治療指針・第2版』が発刊された。概して, 複数の編者の手になる分担執筆の書というのは体裁を整えている割にはあまり有用でなく, 一読した後はただ書架のスペースを埋めているだけということが多いものだが, 本書を通読してみると「治療に主眼を置いて, 実地臨床にただちに役立つものを編集して, 読者に届けたい」という編者 (山内裕雄教授, 真角昭吾教授, 辻 陽雄教授, 桜井 実教授) 諸氏の並々ならぬ熱情と, 長時間を費やした共同作業の跡がひしひしと伝わってくるようである。

1987 年の本書初版には評者も参加させていただき, 駄文を呈したこともあって, 診察中にふと疑問が生じた時には, すぐに本書の頁を開いて実用的な知識を吸収したものである。思えば, 多忙を極める臨床医の一人として, 本書は“気軽に相談できる友達”として随

分と愛用させていただいた。今回の第2版では新たに第1章「基本的治療手技」, 第2章「検査・治療の機器・材料の進歩」, 第9章「末梢循環障害, 壊死性疾患」, 第10章「スポーツ障害・外傷」, 第11章「整形外科医とリハビリテーション」など, 現在実際に必要とされている医療に即応した5つの章が追加され, 項目数も152も増やされて540項目になった。整形外科臨床医に必要なことは, これでほとんど網羅されたといっていだろう。したがって頁数も500頁から730頁に増え, 本自体もその成長を物語るかのようにだいぶ厚くなっている。単なる第2版という以上の, まさに大改訂である。

しかし, 特筆すべきことは書物の厚さではなく, 内容にある。ことに, 前述の第1章と第2章においては整形外科総論に始まり「薬剤の使い方」から「ブロックの方法」「ショック時の対応」など臨床の場で必要な知識がきめ細かく書かれ, さらに近年目覚ましく発達した検査法や治療手技の数々が広範に収録されているのがうれしい。また, 第10章と第11章では

学会と認定医が必須領域として取り組んでいるスポーツ障害とリハビリテーションへの具体的な対応が, 要領よく述べられている親切さもある。勿論, それぞれの執筆者の記述には濃淡やムラはあるが, どの項目を拾ってみても文章は簡潔で華墨の香りを漂わせており, あたかも定められた時間内にうまく要約され発表された名講演を聞いたような読後感がある。内容を和ませる図と写真の数も読者の要望をいれて96図から389図へと大幅に採用され, 活字の羅列によって起きる堅苦しさが見事に解消されている。

初版本と第2版本, 手元にある2冊を比較してそれぞれの特徴を強いてあげてみると, 前者では一般的, 総括的な基本的知識に主眼をおいた論述が多くみられたが, 後者では幾分先進的で“私はこうしている”という傾向をもつ記載が少なからずあることであろう。だが両者いずれも味があり, 甲乙つけがたいものがある。両者を読み比べられた読者はそこに, 古い皮袋に年々新しい酒がそそぎつがれていること, 4年間の歳月にみられた医学の進歩を感じとれることと思う。したがって, 整形外科医療に携わる諸氏には是非とも両者を併せ愛読されることをお勧めしたい。実地臨床にただちに役立つ知識が満載されている本書を, 親しい友垣として活用していただきたいものである。